

2016年度 地域課題の総合的探求プログラム



1年次「地域課題入門」

2年次後期「地域課題特論ⅠA」

3年次前期「地域課題特論ⅡA」

3年次後期「地域課題演習」

4年次前期「地域課題研究」

茨城大学 人文学部

2017年3月

人文学部「地域課題の総合的探求プログラム」について

茨城大学人文学部では、2012（平成24）年度から、【地域課題の総合的探求プログラム】を設置しました。

これは、各学生が、学部・学科・コース・ゼミで自らの専門分野を学ぶのと並行して受講するカリキュラムで、「専門的な知見に基づき、総合的な判断のできる地域リーダーを育てる」目的で開講するものです。

このプログラムを履修する学生は、関連の科目や、自らの専門分野の科目のほかに、プログラムの必修科目として、以下の授業を受講します。

- 1年次集中講義 「地域課題入門」
- 2年次後期 「地域課題特論ⅠA」
- 3年次前期 「地域課題特論ⅡA」
- 3年次後期 「地域課題演習」
- 4年次前期 「地域課題研究」

2017年3月卒業の学生が本プログラムの2期生にあたります。2期生は3人が修了しました。3人は3年次後期からチームを組み、自分たちで見出した課題を解決するための方策を考え、2016年度前期末の発表会で報告を行いました。その後、内容をさらに深め、茨城県主催の「RESASを活用した 茨城県地方創生政策アイデアコンテスト」に参加して、最終プレゼンに残り、奨励賞を受賞しました。

2016年度には、3期生にあたる3年次生5人がチームを組んで、課題に取り組んでおり、4期生にあたる2年次生が後期に「地域課題特論ⅠA」を履修しました。また、1年次生向けには「地域課題入門」を開講しました。



1年次「地域課題入門」

1年次生向け「地域課題入門」は、教養科目・総合科目の集中講義として、常陸大宮市の協力の下、毎年、開講してきましたが、2012年度からは、人文学部【地域課題の総合的探求プログラム】の導入科目として位置づけられるようになり、常陸大宮市とともに、茨城県庁にも協力いただくようになりました。

2016年度は、41名の学生が受講し、以下の内容で行われました。

- 1日目 2016年8月12日 県庁での授業**
- 2日目 2016年8月13日 常陸大宮市での授業1**
- 3日目 2016年9月25日 常陸大宮市での授業2**
- 4日目 2016年9月27日 常陸大宮市での授業3**

今年度の本授業では、茨城県と常陸大宮市が共同で事業に取り組んでいる「公共交通」の現状・課題について学ぶこと、常陸大宮市で行われている「市民主体のまちづくり」について学ぶことの2つをテーマとしました。

1日目は、茨城県庁で授業を行いました。企画課の職員から、新しい県の「総合計画」について、また、企画課交通対策室から茨城県全体での「公共交通」の問題や施策について説明を受けました。本授業で現状を視察する常陸大宮市についての概説もありました。

学生たちは、グループに分かれ、これまであまり具体的に考えたことのなかった「公共交通」の問題について、最初のグループワークを行いました。

2日目は、大学からバスで出発し、常陸大宮市をまわりました。JR常陸大宮駅、JR玉川村駅を見学、大宮地域から緒川地域を通り、道の駅みわ(北斗星)へ。美和地域を通して、JR山方宿駅を見学。道の駅常陸大宮(かわプラザ)へ行き、常陸大宮市文化センターまで移動しました。

常陸大宮市内の各所、JRの駅、バス停の様子、常陸大宮高校や小瀬高校の場所、2つの道の駅などに立ち寄ることで、常陸大宮全域の位置関係、地域の様子、公共交通を考えていくためのポイントとなる地点を見てもらいました。

3日目は、常陸大宮市で、市民主体に取り組まれているまちづくりについて学ぶというテーマで、「常陸大宮市まちづくりネットワーク」のみなさまにお世話になりました。

おおよそ3年に1度、組み立て・公演をされている「西塩子の回り舞台」の組み立て会場では、「西塩子の回り舞台保存会」のみなさまにお話をうかがい、舞台の飾り付けに使うための竹を割る作業などを体験させてもらいました。

その後、会場を移し、「常陸大宮市まちづくりネットワーク」の事務局のみなさんから、どのように、市民が中心になってまちづくりを進めているかというお話をうかがい、ワークショップを行いました。

4日目は、今回の授業で学んできたことをまとめて、発表を行いました。午前は「常陸大宮市でどのような公共交通の工夫ができるか」というテーマで班ごとに検討、その内容をまとめ、午後は発表会を行いました。

茨城県や常陸大宮市の職員、「公共交通システムマネジメント常陸大宮地区協議会」の委員のみなさまも参加くださり、学生たちの発表を聞いてコメントやアドバイスをいただきました。





公共交通への提案 (A班)

A班

1. 使わなくなった車の有効活用

▶高齢になると・・・
病気や体力の問題から車の運転が難しくなり、車の運転をしなくなる人が多い。

▶しかし現状では・・・
路線バスの本数も少なく交通弱者にとっては住みづらいまちになっている。

一そこで、乗らなくなった車を買取り、乗り合いタクシーやシェアリング用の車両として利用する。

乗り合いタクシーに比べシェアリングカーは費用が高くなるが、同じ目的地へ向かう人同士で乗ることができるため少ない時間で目的地へ到達することができる。

2. 停留所の改善

【問題点】
暗いと停留所・時刻表が見えにくい。

【提案】
停留所の標識をソーラーLED標識に変更。
・蓄電池を使用しているため電源の心配がない。
・環境に優しい。
・ランニングコストの削減

▶遠くからでも停留所の位置が分かる。
▶暗くても時刻表を確認することができる。

3. バス内アナウンスによる紹介

路線バスのアナウンスは停留所付近の施設を紹介

▶おすすめスポットを紹介できれば、その場所を訪れる人が増えるのではないかと

例えば・・・

- 「やすらぎの里さくら祭り」が〇月×日に常陸大宮市やすらぎの里公園で開催されます。」
- 「産ノ口親水公園では、この時期あじさいが見ごろです。」など

他にも・・・

- 覚えやすいキャッチフレーズなどをつけるとより記憶に残りやすい
- 違う路線内でもアナウンスができればより多くの人に伝えられる

4. 若者文化との融合

▶「機りたくなる」を目指す

→若者がtwitterやInstagramに載せたいようなユニークな外観・内装

●コロッケのつり車を起用して知名度をあげた電ケ増線「コロッケトレイ」

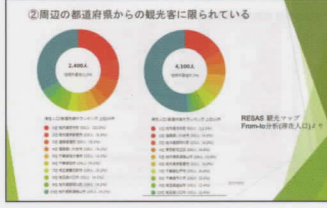
内装・外観を工夫する→車内にステッカーを貼る（貼や窓など）
・絶景スポットの案内（シャッターチャンス）
・車内にひたまの位置
・珍しいラッピングカーの運行

▶「自慢したくなる」を目指す

- ・東北芸術祭とのタイアップ
→用紙などで展示品の解説と美しい写真を展示
→移動ルートも指示（公共交通機関を利用）
- ・公共交通機関を使うことで利用できる、かわいいカフェスポットなどを紹介

5. 駅・地酒・星を利用した街コンの開催

▶現状
①公共交通の利用者が少ない
2015年度 各駅の乗車人員 1日平均
常陸大宮駅 924人 玉川村駅 195人
山方駅 113人 茨城県のサイトより



▶提案
駅・地酒・星を利用した街コンの開催
→・高層の定時走行時刻に電車を走らせる。
・星を見ながら地酒を味わい、出会いを見つける。

▶結果
街コンの開催
→・公共交通の利用促進
・遠くの都道府県からの観光客の増加

ご静聴ありがとうございました。

市民に愛される市民バス

～市民バス 市民の足計画～

B班

現状

- ・運行日数・本数が少ない
- 本数が少ないから使いたいときに使えない？使いにどう？
- ・自家用車を使ってしまふ
- 利用者が少ない？
- ・市民バスの運営に1億5000万円
【平成28年度 一般設計等自動車事業概算(常陸大宮市より)】

問題点

・日数・本数が少ない

・利用者が少ない

- ・各地域内を運行する路線の利用者数(2年間の平均1日当り利用者数)
美和地域(最多)28人/日
大宮地域(人口多)12.3人/日
- ・各地域から大宮地域へ結ぶ路線の利用者数
美和地域及び藤川地域からの路線 約35人/日
山方地域及び藤前山地域からの路線 約10人/日
【常陸大宮市地域公共交通連携計画(平成28年2月) 関係各機関より】



(4) 公共交通を利用していない人が公共交通を利用するための条件
現状、自治体を利用していない人に対しては、「お金の壁」が大きな障壁となっている。公共交通を利用するための条件として、料金や割引などにより、「お金の壁」を解消し、運行の確保を促せる必要がある。

【常陸大宮市地域公共交通連携計画(平成28年2月) 常陸大宮市】

・市民バスの運営にお金がかかりすぎる

【常陸大宮市地域公共交通連携計画(平成28年2月) 常陸大宮市】

お金がかかっているのに利用者が少ない

お金を取っていないから収益もない

最終目標は 交通企業と利用者間の黒字経営

解決策

- ・時刻表、走行路線を利用者が決める
- 無駄な運行を減らす、利用者がより使いやすい
- 需要に合った運行！！
- ・料金を取る
- 収益を上げる
- ・スーパーや病院と連携し、利用者特典を作る
- 利用者を増加

例えば・・・

通院 買物

【常陸大宮市地域公共交通連携計画(平成28年2月) 常陸大宮市】

・ICカードを作ろう！

- ・バスの定期券として
- 小銭がいらない！
- ・市民バス利用証明として
- スーパーで割引措置！
- 病院内の売店で割引措置！

- ・病院の診察券として
- バスの中で予約、受付(バスにタブレット、バスから病院を簡単受付！)
- ICカードでバスから病院へ情報が飛ぶ
- 市民バス利用者をまとめて診察

・ICカードを持っていない人

→チケット渡す等で割引措置！

結果・・・

- ・時刻表、走行路線を利用者が決める
- 需要に合った無駄のない運行ができる！！
- ・スーパーや病院と連携し、利用者特典を作る
- 利用者が増加、地域活性化の第一歩になる！
- ・料金を取る
- 市の負担が少なくなる！

地域課題入門 C班

C班

～常陸大宮市におけるバスモデル事業の提案～

常陸大宮市内における公共交通の現状

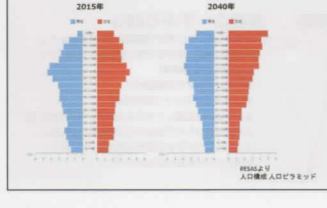
その他福祉タクシーや有償運送（ボランティア）もある。

常陸大宮市内における公共交通の課題

市内に各種の公共交通が運行されている

しかし！！

自家用車の利便性が優先されたライフスタイルになっているため
市民の公共交通に関する意識が希薄となっている。



バスモデル事業の提案にあたって

- ・市民をターゲットにしたモデル事業
- ・非市民（観光客）をターゲットにしたモデル事業

市民をターゲットにしたモデル事業

- ・市民向けバスター
- ・市外のイベントへのシャトルバス

1年次 地域課題入門

◎季節ごとのツアー

- ・景観狩り
- ・様々な体験活動
- ・イベントやお祭り
- ・親睦会 etc.

→ これらを取り入れて ツアーを企画

春→いちご狩り、花見etc. 夏→夏祭り、花火、川遊びetc.

◎ナイトツアー
夜にしか見ることのできないものや体験をメインにしたツアー。

◎その他

- ・ツアー料金はできるだけ安く。
- ・市民や市外に住む家族や友人等の割引システム。
- ・ツアー参加によって得られる特典。
 - ⇒ 常陸大宮市内の店や施設で使用できる割引券の贈呈。
 - ・ツアー中に行くお店や場所に関する商品、グッズ等。

市外へのシャトルバスの提案①

・主要都市へのバス、大型施設へのバスを利用してもらおう

現在の運行情報

常陸大宮 - 4:05発 - 7:05着 - 4:05発

例：常陸大宮駅→東武駅 電車の場合
乗車料 2回
運賃 2590円

バスは20分がベスト

市外へのシャトルバスの提案②

・市外のイベント会場への直通バス

非市民（観光客）をターゲットにしたモデル事業

- ・手ぶら旅
- ・市内のイベントへのシャトルバス

手ぶら旅

- ・「手ぶら」をコンセプトにツアーを企画。
 - ～リュック一つで旅に出る～
 - ・車に荷物が少ないだけでいい。
 - ・ツアーでありながら時間に縛られない。
- ・常陸大宮市内の各施設や公共交通機関で連携が必要。
- ・旅行者が少ない荷物でこれら各施設で準備する必要もある。

常陸大宮市ってどんなイベントがあるの？

そんなにたくさんイベントあるの？

平成28年度 常陸大宮市のお祭り・イベントスケジュール

開催日	開催時間	開催場所	主催者
1月1日	10:00～16:00	常陸大宮駅前	常陸大宮市
1月15日	10:00～16:00	常陸大宮駅前	常陸大宮市
1月31日	10:00～16:00	常陸大宮駅前	常陸大宮市
2月15日	10:00～16:00	常陸大宮駅前	常陸大宮市
2月29日	10:00～16:00	常陸大宮駅前	常陸大宮市
3月15日	10:00～16:00	常陸大宮駅前	常陸大宮市
3月31日	10:00～16:00	常陸大宮駅前	常陸大宮市
4月15日	10:00～16:00	常陸大宮駅前	常陸大宮市
4月30日	10:00～16:00	常陸大宮駅前	常陸大宮市
5月15日	10:00～16:00	常陸大宮駅前	常陸大宮市
5月31日	10:00～16:00	常陸大宮駅前	常陸大宮市
6月15日	10:00～16:00	常陸大宮駅前	常陸大宮市
6月30日	10:00～16:00	常陸大宮駅前	常陸大宮市
7月15日	10:00～16:00	常陸大宮駅前	常陸大宮市
7月31日	10:00～16:00	常陸大宮駅前	常陸大宮市
8月15日	10:00～16:00	常陸大宮駅前	常陸大宮市
8月31日	10:00～16:00	常陸大宮駅前	常陸大宮市
9月15日	10:00～16:00	常陸大宮駅前	常陸大宮市
9月30日	10:00～16:00	常陸大宮駅前	常陸大宮市
10月15日	10:00～16:00	常陸大宮駅前	常陸大宮市
10月31日	10:00～16:00	常陸大宮駅前	常陸大宮市
11月15日	10:00～16:00	常陸大宮駅前	常陸大宮市
11月30日	10:00～16:00	常陸大宮駅前	常陸大宮市
12月15日	10:00～16:00	常陸大宮駅前	常陸大宮市
12月31日	10:00～16:00	常陸大宮駅前	常陸大宮市

もっとPRをすべき！！

目立つようなキャッチコピーを考えたり大きな駅での宣伝が必要。

イベントの集客、駅は遠いから、シャトルバスには乗らない。

バスに乗らない！！！！
駅から乗りたい人は乗車できると言え、乗車料がない。

そしてみんなイベント会場に来る。

そこで！！

混まないうちに常陸大宮に来てもらい

さらに

常陸大宮の案内バスに乗ってもらおう作戦！

さらに

- ◎イベントに絶対遅刻しない。
- ◎帰りもきちんと送る
- ◎常陸大宮の良さが存分でない？

このようなバス良くないですか！？

参考資料：www.city.hitachiomiya.lg.jp/

バスの車両を改良するモデル事業

- ・座席を減らし、スペースを広くする
- ・バスロケーションシステムの導入
- ・図書バス、オフイスバス、夜られるバス、病院予約バス

利用者全員向け
市民向け

バスロケーションシステム

バスロケーションシステム システムイメージ

地域課題入門 D班

D班

テーマ：道の駅をもっと楽しく。

対象：自家用車で道の駅に行けない人と自家用車でしか行かない人。

目標：車を運転できない人に道の駅を利用してもらう。普段公共交通を利用しない人に良さを知ってもらう。

現状① 利用状況(聞き取り調査)

- ・まだオープンして間もないため、はっきりとしたデータはない。
- ・利用者の6割は地元の人たちで、残りの4割は袋田の滝や大子町のついでに寄る人たち。
- ・地元の人たちにとっては「スタバ」のような存在。

現状② 立地・交通面

- ・自然が豊かで景色も綺麗。
- ・川遊びやBBQができる。
- ・駅から近いとは言えない場所にある。
- ・それにもかかわらずバスがない。
- ・結果として駐車場が混む。

提案

- 1月〜でお酒の試飲のイベントを開催。その後どうやって帰るか。
- 手ぶらでBBQ 花火などの場所を提供。

提案① お酒に関するイベント

- ・地酒の試飲・販売を行う。(月一くらいで)
- ・お酒に合う料理を提供する。(周辺の飲食店の出店や学生の企画)
- ・鉄道やバスなどの公共交通機関を利用すると、割引やおみやげなどのサービスあり。
- ・地元の人々も気軽に立ち寄って、軽くお酒を飲んで食事できるような雰囲気。

どうやって帰るか？①

入日帰りの場合

- ・水戸方面への終電の時間が早いので、間に合うようにイベントを終わらせ、バスで駅まで送る。
- ・地元の人たちのため、市内循環バスを走らせる。

新路線/バス

どうやって帰るか？②

8. 宿泊する場合
 - ・周辺の旅館までバスで送る。
 - ・次の日帰るときは、駅まで歩いてもらう。(自然を満喫できる&健康にも良い)
 - ・地域にお金を落としてもらう。

常陸大宮駅と銚子屋旅館

市内循環線 かわプラザ→常陸大宮駅
常陸大宮駅から銚子屋旅館まで送迎バスがあれば便利

かわプラザと玉川村駅が繋がると...

玉川村駅とホテル船平 玉川村駅と新栄旅館 かわや 水郷線-山方駅-船平 水郷線-山方駅-かめや 山方駅から徒歩30分 山方駅から徒歩10分

小嶋公民館と静ヒルズリゾートホテル

小嶋・村田線
公民館まで送迎バスがあると便利

休日19時以降、人が減っているの
日帰りの人が多いと予想。

イベントは土曜日の開催がベスト。

提案② 手ぶらBBQ

- ・車を持っていない学生や遠慮なくお酒を飲みたい大人のために、手ぶらで安くBBQができるプラン。(いい感じの名前募集)
- ・予約すれば駅までの送迎あり。(BBQの予約とセットで割引あり)
- ・食材や道具は用意してもらえると、それを活かす。
- ・花火とかアウトドアな遊びもできたらいいかも。
- ・手ぶらでBBQができる場所は意外と少ないので、案内外からの乗客も見込めるのでは？

ご清聴ありがとうございました

1年次 地域課題入門 地域課題入門を受講して〔学生たちのレポートから〕

■初めは、三年に一度のお祭りというフレーズに惹かれて受講した講義でしたが、地域の方の活動を見たり、聞いたりするうちにその活動の「輪」に自分も参加したいという気持ちがこみ上げてきました。今回は常陸大宮市内におけるバスモデル事業の提案をさせていただき、学生として「輪」に参加する一つの方法を学べたのではないかと思います。

これからも様々な形で地域の「輪」に参加していきたいと考えています。その中で今回学んだことも生かしていけたらいいと思います。(NY)

■4日間の講義を終え、まず私が思ったのは公共交通について考えるのは非常に難しいということだ。現状不便だから運行本数をふやせばいいと考えては市や会社の負担が大きくなるだけであるし、逆に廃止してしまえばいいと考えればそれまで利用してきた人々の足が奪われることとなる。常陸大宮市の場合は車を持っている市民はほとんど自家用車で買い物や病院にいき、車を持っていない人や運転の困難な高齢者は不便な公共交通機関を利用せざるを得ない。こうしたところが常陸大宮市の公共交通の問題点であると考えた。ではどうすればこうした問題を解消することができるのだろうか。交通対策は少なからず費用がかかる。なのでいかに費用をかけずに利便性を高めるか、どうすれば利用者の満足のいく公共交通になるのか、そういったところをもう少し学びたかった。

また、まちづくりについてもお話を伺って考えることがあった。以前ほかの講義で実際にまちづくりにかかわる方々からお話を伺う機会があったのだが、その時は「働ける場を増やすこと」「子育てママさんの支援」など、内部へ訴えかけるような意見をたくさん吸収させていただいた。しかし今回はインターネットやその他の通信媒体を利用して、市のコミュニティの外へ訴えかけ、つながりを求めていくことが大切とかがえた。特に常陸大宮市のような場所であれば我々のような外から来た若者の力は当然必要とされるのであろうが、それ以外の地域でも自治体の内部の人間だけで閉鎖的にまちづくりを行うのではなく、外部から人を呼び寄せて一緒にまちを創りあげていくことが必要とされる。そういった知見も得られたように思う。(YS)

■地域課題入門で現在の常陸大宮市の公共交通について学ぶことで、様々なことを知ることができた。

コミュニティカフェバンホフでは、地元の人を思った経営の仕方や、メニューをだして経営していると感じた。また、地元の人以外にも親しんでもらえるようにお土産や常陸大宮の行事の紹介などを展示しているところもよかった。使う人のことを思うことで、いろいろな西塩子の回り舞台の手伝いをさせていただいた際には、伝統の行事を守るためにその地元の人だけでなく、違う地域の人や大学生も手伝っているのを見て、伝統を守る方法はその地域の人たちだけで守るということだけではなく、柔軟に考えることが大切なのだなと思った。常陸大宮市まちづくりネットワークの倉田さん、西村さんのお話では、どのようにボランティアや地域の企画と一緒に活動する仲間を集めるかという話が特に興味深かった。

最終日の発表では、どのようにすれば常陸大宮市の公共交通の利用者が増えるかをまとめた。班の中でどのようにすればいいか考えるときに、統計やバスの資料を見て改めて知ったことが多かった。また、公共交通のことを考えることで、その周囲の問題についても考えることができたと思う。実際に常陸大宮に関わる仕事をしている社会人の方々に自分たちの意見を聞いてもらってアドバイスをもらうことは、貴重な機会であった。

今回の集中講義で、常陸大宮の公共交通を中心に、地域を維持していくために大切なことを自分で感じて、考えることができたからよかった。今後地域の問題について取り組む際の参考にしていきたいと思う。(KA)

■常陸大宮市の公共交通の現状を見てまず気になったのは、これだけ不便だと感じていないのかということだった。バスは本数が少ない

うえに学生が使いそうな時間には走っていない。市民バスが走っているが、こちらも運行日数・本数ともに少なく、停留所となるのが個人宅だったりする。市民のほとんどが自家用車で移動をしていて、公共交通機関はほとんど使わないというお話を聞き、高齢者の運転の危険性や苦勞、車を運転できなくなった後の移動手段を考えるきっかけとなった。「こうしたらよいのではないかと案を出すと、「そうするとこういった問題点が出てくる」というように、一筋縄ではいかない問題だったが、実際に常陸大宮市に住む祖父母に話を聞くと、「車が運転できなくなったらバスを使うし、タクシーも呼べるから大丈夫だ。」と書いていた。祖父母の家の近くにバス停があるのが救いだが、2日目に市内を回って気付いた「バス停が少ない」という問題点を考慮すると、市内の運転できなくなった高齢者が皆バスを使いやすく身近なものに感じているかどうかは疑問が残ると思った。

自分の班では、公共交通と利用者、地域の連携に着目して、市民バスについて考えた。最初のグループディスカッションではなかなか打ち解けられず、話し合いもあまりうまく進まず、意見もありがちなものばかりだった。しかし、回を重ねるごとに少しずつ皆が打ち解けて意見も出てくるようになり、最終的には「この意見ちょっと無責任じゃないか?」という意見も出るほど、学生の無茶な発想を出すことができた。多機能にカードを作ってはどうか、という意見を提示したが、実際に常陸大宮市に住む祖父母は、今後バスを使うようになるから、と茨城交通のICカード「いばっぴ」を購入するそうだ。このように、実際にバスを使う人が本当に使いやすいバス、サービスを整えれば、利用者も増えるのではないだろうか。

他の班の意見を聞き、自分たちとは違う着眼点、違う解決策を見られたことで、たくさんの考えを知り、それについても考えることができた。学生らしい鋭い指摘と豊かな発想力で生み出された様々な案はどれも興味深く、「楽しそう」と思えるものだった。自分は発想力が乏しく、あまり革新的な意見が出せない人間なので、こういったアイデアを聞くことはとても良い刺激となった。物事を始めるときに、外の人間はもちろん、物事を実際に動かしていく側、内の人間も「楽しそう」と思えることが成功につながる鍵だと思うので、自分もこういった意見を出せるように、たくさんの考え方を知りたいと思った。

この集中講義を受講して、地方の公共交通についてだけでなく、地域について、そこに暮らす人々についても考えることができた。自分が一番嬉しかったのは、最終日、今までになくグループの皆が打ち解けて、今までどこかよそよそしかったのが嘘のように笑い合いながら作業ができたことだ。何とかして皆と話したい、皆が楽しかったと思えるグループ活動にしたい、と、自分が進んで発言したりまとめてみたりのが少しでもプラスになっていたら嬉しいと思う。

先日、いばっぴの購入を決めた祖父母が、茨城交通のバスでしか使えないのが難点だと言っていた。他の会社のバスや電車でも使えたら良いのに、と嘆いていて、自分も共感した。このように、まだまだ考えるべきところ、改善できる場所はたくさんあるので、今後の生活のなかでも意識して問題点を探してみたいと思う。また、見つけた問題点の中で自分にも何かできることはないか、もっと当事者意識を持って考えようと思った。(KM)

■水郡線の遅延から始まった集中講義4日目は、発表内容を班員で詰めていく作業で手いっぱいな感じだった。この集中講義で常陸大宮市のことを学習したが、私が想像していたことと、実際に常陸大宮市を訪れてみて感じとは全然違う印象を受けた。やはり、フィールドワークはとても大事だなと思った。市民代表の倉田さんや市役所の方々にたくさん偉い方が私たちの発表を聞いてくださった。予想以上の多さに緊張はマックスだった。

公共交通の在り方という課題は私たち学生にとっては、とても身近で考えやすい内容だったので比較的取り組みやすかったが、しかし一方で、班員それぞれが普段思っていることをそれぞれ挙げていくと、おあまりにも量が多くて、方向性が分からなくなってしまい、まとめるのにとっても苦勞した。学生は自家用車で行動可能な人が少ないため、多少は意見の偏りがあるのではないかとも思ったが、意外にもリアリティのある意見に落ち着いた。これは、私たちのグループだけでなく、

他のグループの発表を聞いているときにも同様のことを感じた。さすがにコストの面までは考えることができていなかったが、どの案も頑張れば近い将来実現可能なのではないかと、...と思えるものだった。

私たちの班が考えた公共交通機関のストレスの要因は、待ち時間があること。そこで、待ち時間を有効活用する方法や待つことへのストレスを減少させる方法、バスの中での時間を楽しく過ごすための工夫について考えた。そこから詰めたコンセプトが「近所づきあいのある待合室」である。どうしても、「近所づきあい」というキーワードにあててこだわったのにはいくつか理由があるが、一番はなにより班員でフィールドワークを行って感じた「今の常陸大宮に合っている」という感覚があったからだと思う。このコンセプトが決まってからは、今までまとまらなかった意見がスイスイとつながっていき、あつという間にまとまった。悩んだ時には「近所づきあい」があるかどうかということを考えてると必然的に答えは出てきた。

グループディスカッションで自分の考えを述べることは、人見知りの私にとってとても勇気のいることだ。最終日に堂々と発表していた自分の姿になによりも私自身が一番驚いた。この数日間とても成長できた気がする。また、議論することの大切さを身をもって実感することができた。大勢と議論することは無限の可能性を秘めていると実感した。また、自分とは全く違った視点からの発想を持った意見を聞くことで、自分自身の価値観を広げられたと思う。

このような機会を与えてくださった西野先生にはとても感謝している。楽しい授業で、毎回毎回楽しみだった。ありがとうございました。(SK)

■今回参加した地域課題入門では座学では学べないことを学習できたと感じる。自分は茨城県外の出身であるため、県内の文化や歴史について疎い反面、自らの故郷と比較して物事をとらえることができた。

一日目に県庁職員の方から伺った茨城県総合計画・人に優しい生活環境づくりの項目中に、公共交通の利用者が減少しているため鉄道やバスの路線が廃止されているという記述があった。鉄道会社やバス会社は民間の会社であるので利益を上げられなければ路線が廃止されるのは当然ではあるが、私は減少する路線をある程度維持するためには行政が関わるべきだと考えている。なぜならば病気の関係上運転ができなかったり、歳をとって免許を返納したり、通学したりする際に公共交通は必要であるからだ。二日目に実際常陸大宮市に住んでいらっしゃる人の話によると、自家用車の方が利便性が高く、その利便性を手放してまでわざわざ日常生活で公共交通を利用しはしないという。時間の融通が利くことや荷物の量がある程度気にする必要が無いことからその話は頷ける。よって私は継続的利用者のための路線維持・輸送の効率化と、日常生活で公共交通を利用しない人に向けた公共交通を利用する新たな価値の創造が必要であると考える。

路線の維持・継続について、実際にバスや電車を利用してみて気づいたことがいくつかある。私が普段利用する茨城大学一水戸駅間のバスはある程度本数があったが、県庁行きの路線は大変少なかった。これは通勤する時間帯ではないからというの理解できたが、それよりも私が気になったのはバスの遅延である。普段乗らない路線であるため時間を間違えたかもしれないとやや不安になった。結果としてバスに乗ることができたが、定時にバス停に到着しないということはバスのデメリットであると思われる。また日が暮れてからバス停を見つけることが難しく、光る標識を設置するなど利便性の向上をはかることができると考えられる。このような些細な問題を改善していくことで人に優しい生活環境が実現するのではないだろうか。

また普段公共交通を利用しない人に対する新たな価値について、北斗星やかわプラザなどの「いつでもある」ものと、三年に一回行われる西塩子の回り舞台のような『期間限定』のものとして宣伝方法やアピールの方法を変えていくべきであると思う。特に道の駅などはスタンプリナーなどが県民に対して有効なものではないだろうか。

グループディスカッションについて、全く知らない人と話すことについて少々の不安を感じたが、最終的に自由に意見を言うことの

できる空気感を作り出せてよかった。他人と話すことによって自らの考えを発展させたり、正反対の考え方を理解したりと辞書的な意味でしかなかった多様性という言葉についての実質的な理解が深まったように感じる一方で、多元的な視点を身につけることや発想力を磨く必要があると強く感じた。最終日の発表ではおおむね肯定的なコメントをいただいて嬉しかったが、同時に批判的な指摘が無いことに対し不安を感じた。

今回は常陸大宮市をモデルとしての授業であったが、思考方法や資料の使い方は多くの場面で使うことができると考えられる。この経験を元にさらなる学修を積んでいきたいと思う。(TM)

■集中講義三日目は、西塩子の回り舞台の制作に携わっている方や、常陸大宮を拠点に町おこしの活動している方々から直接話を聞くことができた。回り舞台の制作作業を行っていたおじいさんや、カフェを建てたり駅前イベントを行ったりしている方のお話はより具体的に、私自身これまで以上に現実的な視点で話を聞いた。

西塩子の回り舞台の制作現場では、柱をとめているボルトや地面に刺さっている柱の足元を覆う藁について質問をした。どちらも昔とは違ったやり方になっていることが分かった。舞台そのものを長く保つために縄でしめていたところを、安全性のためにボルトを使用するようになったと聞いた。柱を覆う藁も地面に埋めたパイプの目隠しのためだそうだ。そこで感じたことは、昔ながらの知恵や技術などの伝統の継承と、現代だからできる最新技術の両方の重要さである。昔は地域住民の手だけで開催できていたこの祭りも、今はよその人の手伝いが不可欠となっている。歴史あるものであっても、それをそのまま再現することは難しい。そこで、今だからこそできる形で未来へ残す工夫が必要になるのだと思う。人口減少と高齢化によって生活の維持が危ぶまれる地域では、住民以外の人々の協力が必要になるのだと感じた。そしてそのことは決して悪いことなどではなく、昔ながらの近所づきあいに加えて、今までの交流エリアを超えた新たなつながりが獲得できる機会を得られるということでもあるのだとわかった。

なくしたものを持っていないものを悔んだり惜しく思ったりするだけでなく、そんな現状だからこそできることに目を向けた行動を起こしていくことが、これからの地域の課題に取り組むときに必要とされる力なのかなと思った。(TM)

■三日目に見学した西塩子の回り舞台は想像していたよりも大きく大掛かりなものだったので驚いた。作業をされていた方から戦時中は戦地へ赴く兵士を鼓舞するためこの舞台を使い頻繁に公演を行っていたことを覚えていたと聞き、戦時下の窮乏した生活の中でやりくりして行われた数少ない娯楽として本来の目的とは違った役割を担っていたことがわかった。また、話を伺っていると『西塩子の回り舞台』ではなく西塩子の『回り舞台を利用した組み立て式舞台』であることを強調されており、回り舞台だけではなく一から自らの手で作っているという誇りのようなものを感じた。今まで歌舞伎は室内で行われるものだとばかり思っていたので屋外で、さらに一から舞台を組み立てて行うのはとても珍しいと感じた。今年を逃すと次は三年後になってしまうので来月の15日にはぜひ観てみたい。

四日目のまとめの作業は大きな問題もなくスムーズに進めることができたと思う。班ごとの発表ではリーサスのデータをうまく活用しながら発表を行うことができた。今まで面識のなかった人々と四日間を過ごし街づくりに関して話し合うことはとてもよい経験になった。

その土地で一度公共交通が衰えるとそれを改善、回復までもっていくのはとても難しい。しかし何も行動しないのと衰えるばかりで今後より深刻な問題になるであろう高齢化社会に対応できなくなる。

過疎地域の公共交通は常陸大宮だけでなくこの都市でも問題になっている。今回は常陸大宮市を一例にこの課題について考えたが、その土地を視察することで見えてくる解決策が多くあり、その街を実際に訪れることの重要さを実感した。(NC)

2年次「地域課題特論I A」

2年次後期「地域課題特論I A」は、茨城県にご協力いただく「連携講座」として、2013年度にスタートしました。

今年度も、授業全体を茨城県に全面的にバックアップいただき、企画課の職員の方たちを中心に、企画、授業運営、講師をつとめていただきました。

1年生の「地域課題入門」とテーマを継続させ、2年生として「県北地域の振興」「公共交通」の課題に取り組みました。

実地研修でも、JR水郡線やバスなど公共交通を利用して常陸大宮市と大子町を訪れ、常陸大宮市では実証運行中の市内循環線に乗車して、「県北芸術祭」展示会場と

道の駅常陸大宮(かわプラザ)を視察しました。また、大子町でも地域活性化の取り組みを行っている方のお話を聞き、町歩きとあわせて「県北芸術祭」展示を見学しました。

その後、学生たちは、4つの班でグループワークを行い、それぞれ自分たちでテーマを設定し、課題の検証、調査等を行って、提案をまとめました。

まとめの発表会には、県や市の職員の方たちのほか、「公共交通システムマネジメント常陸大宮地区協議会」の委員のみなさまも参加くださり、学生たちへの助言と意見交換を行いました。









授業スケジュール

1		オリエンテーション
2		茨城県と茨城県庁について、公共交通について、県北芸術祭について、RESASの活用について
3	企画課	茨城県の特性と将来像（概論）
4	統計課	県統計データから見る茨城の姿
5	企画課交通対策室	県事業の事例紹介 ①（公共交通）
6	県北振興課	県事業の事例紹介 ②（県北振興）
7		
8		現地視察 ①・②
9		公共交通：常陸大宮市 バスの実証運行 など 県北振興：県北振興策、県北芸術祭 など
10		
11		発表の準備 ①
12		発表の準備 ②
13		発表の準備 ③
14		発表会
15	まとめ	学生との意見交換

親しみやすい公共交通に向けて

～常陸大宮市の高校生をターゲットに～

A組

A班

- はじめに
- 常陸大宮市の現状
- 問題
- 解決策
- まとめ

1. はじめに

- いくつかの課題
- キーワード 高校生の通学
- 衰退する公共交通機関 特に路線バス
- ＝親しみやすく利用しやすいもの
- それによるイメージアップ

さらに、地方の公共交通機関の衰退を防ぐ試みの提案

2. 常陸大宮市の現状

- 常陸大宮市の人口(15～19歳)→1,865人(2015)
- 市内の高校
 - ①茨城県立小瀬高校
 - 一定員 1学年80人 80×3=240
 - ②茨城県立常陸大宮高校
 - 一定員 1学年160人 160×3=480
- どちらの高校も毎年定員割れを起している
- 常陸大宮市内の高校生の多数は市外へ通学
- 電車の利用

[小瀬高校の現状]

- 生徒の主な通学方法
 - ①バイク 全体の40%
 - ②送迎
 - ③バス

3. 問題

[電車を利用する高校生の抱える問題]

- 居住地によっては最寄駅が遠くバスを利用
- バスの本数が少ない(常陸大宮駅発の最終バスが17時台、18時台など)
- 最寄りのバス停まで遠い場合も

例:常陸大宮駅発長沢経由高部車庫行き 午後16:54発、18:17発

[小瀬高校通学者の通学方法の問題]

- バイク→冬の寒さ、路面凍結による危険
- 送迎→両親の負担大
- バス→電車利用者と同様、本数が少ないなど(傍りのバスは1日1、2本程度、最終バスが17時台)

常陸大宮高校も同様であると想定

市民バスもあるが本数が少なく、土日祝連休

4. 解決策

[高校生の通学向けに特化したデマンドバスの導入]

デマンドバス

一定まった路線を走るのではなく、利用者の呼出しに応じることにより適宜ルートを変えて運行されるバス(ブリタニカ国際大百科事典より)

- バス停まで遠い、バスの本数が少ないという問題の解消
- 部活動などの課外活動や試験期間の考慮
- すでにデマンド型乗り合いタクシーは存在するが、市民全体が対象
- 高校生向けに特化することで効率化を図る

[システム・料金]

- 事前登録制・予約制
- オンデマンド交通システム
- IT技術による予約状況からの自動経路作成、乗り場にバスが着く時間の算出
- 路線バスと同程度もしくはそれより安い料金、独自の定期券
- 電車を利用する高校生をメインに運行(玉川村駅・常陸大宮駅の2駅に絞る発着時刻に合わせる) その中に小瀬高校・常陸大宮高校を通るルートを組み込む

[市内の高校生と作り上げていくバス]

- 内装の工夫
 - ボックス席の導入(交流の場)
 - 装飾等は高校生が中心となって考える
- 利用者の高校生、バス事業者、市での話し合い
- 改善点を伝えやすく反映させやすい環境(日立市のパートナーシップ事業の事例の一部を高校生に適用)
- 市内の高校生のバスや地元への愛着、イメージアップ

[利用促進]

- 市内の中学3年生や高校生を対象に利用啓発冊子の配布(牛久市のモビリティ・マネジメントの事例)

5. まとめ

- 常陸大宮市内の高校生の抱えるバス問題
- バス停までの距離、本数の少なさ
- 高校生向けデマンドバスの導入
- 柔軟な運行により問題の解決へ

高校生と作り上げていくことで高校生の公共交通・地元への愛着やイメージアップを促進

参考文献・資料

- 常陸大宮市の5歳未満人口の推移 <https://eclizen.jp/Population/City/08225>
- 茨城県立小瀬高等学校 偏差値・合格率・受験地 <http://ibaraki.kokukomyuishi.net/highschool/area2/ibaraki/>
- 茨城県立常陸大宮高等学校 偏差値・合格率・受験地 <http://ibaraki.kokukomyuishi.net/highschool/area2/hachioji/>
- 大宮駅前 / バスのば・停留所案内 路線バス・茨城交通 <http://www.aisaku.co.jp/bsq/stop/ibarakimai/omra-station.html>
- 市民バス | 常陸大宮市公式ホームページ <http://www.city.ibaraki.lg.jp/stock/page001940.html>
- オンデマンド交通とは? - 東京大学 <http://www.nml.u-tokyo.ac.jp/od/about.html>
- 平成28年11月2日地域課題特設講座資料

観光客を呼び込む4つのアイデア

B班

常陸大宮に住む方々の古くからの噂・・・
「大宮通って、奥久慈へ・・・？」

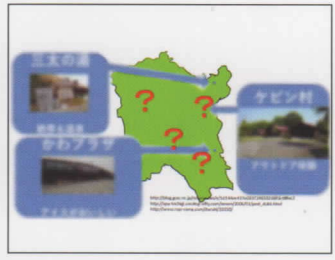


もし噂が本当なら・・・
「通ったことはあるのに、行ったことがない？」

→この人たちを呼び込む為に4つのアイデア!

「常陸大宮の観光地といえど？」

人を呼び込むアイデア①



期待される効果

- ①割引施設の認知度の向上(注目)
- ②興味を引く
- ③行ってみたいと思わせるきっかけ(欲求)

あまりにも有名な「DMAC 鉄則」

注目、興味・欲求の形成、そして行動へ

路線バス一日フリーきっぷ

人を呼び込むアイデア②

背景

- テレビ番組の影響でバス旅の注目が集まっている!!
- お任せ自由も自由な客が一般的に
- 観光客は「いざこざ」を持っている人はあまりいないのではないか?
- バスはおつりが出ず、荷物は乗り降りする観光客にとっては荷物も利金を支払う必要のないサービス
- 水戸市には特定区域のみであるが「水戸一日フリーきっぷ」があり、観光に活用されている。
- 常陸大宮市も!

概要①

- 名前やデザイン
- 「いざこざ」のように公費で地元の人に決めてもらう
- どこで買うのか?
- 常陸大宮駅、茨城大宮営業所、常陸大宮市商工会に加盟している店舗
- バスの運転手からなど
- 価格
- 500～700円(大人)
- 子供は大人の半額
- 一日乗車券の購入者に施設の料金等の割引などの優遇制度

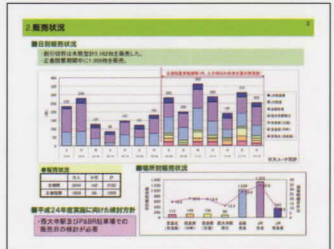
概要②

- どのように使うのか?
- 従来の茨城交通の定期券のように乗車の際に整理券をとつたうえで乗車の際に運転手に見せる。一番最初の乗車の際に運転手に日付が入ったハンコを押してもらう。
- 乗りこをしたときはどうすればいいか?
- 乗りこをした区間の分だけ前乗り料金をお支払いいただく。

予測される効果①

- 近年はお任せの観光ツアーより、オリジナル観光の方が一般的
- 旅行者は交通費を気にかけることなく、自由に旅を楽しむことができる
- 特に、イベントの時に多く使われるのではないかと
- ふるさと祭りふれあい広場、常陸秋そば祭りの期間中など
- <例>
- 奈良県:木筒型一日乗車券
- 正倉院展覧会中、通常の土日祝日より全体的に利用客が多くなっている。

通常の土日祝日:平均168.7人/日 正倉院展覧会中:平均270.1人/日



アイディア#7(観光バスフリー乗車券)

予測される効果②

前のスライドの続きです。

- 一日乗車券の非購入者に比べて、購入者の乗車回数が約2倍になっている。
- 購入者:平均約2.5箇所 非購入者:平均約1.3箇所
- 乗り降りしやすくなるため、回ることで乗車箇所が増えるのではないかと?

・現金で乗車するより満足度が向上するのではないかと?

本調査が得た知見による非乗車地内乗車拡大効果

乗車回数増加、乗車箇所増加の要因

乗車回数増加の要因

乗車箇所増加の要因

参考文献・出典

<参考文献>

木蘭堂一日フリー乗車券
<http://www.grf.nara.jp/secure/76996/0606shiryu02.pdf>
 路線バスで水戸のまちを散策！水戸漫遊1日フリーきっぷ 路線バス・茨城交通
http://www.ishin.co.jp/regular/ticket/mike_free.html
 路線バスの旅 一日乗車券や「太川と親子」番組効果で利用者増
http://www.eslite.co.jp/News/Economy_n/20150907/Postseven_275234.html
 <出典>

木蘭堂一日フリー乗車券
<http://www.grf.nara.jp/secure/76996/0606shiryu02.pdf>

観光バスパンフレット

人を呼び込むアイデア③

アイディア#7(観光バスフリー乗車券)

観光バスマップ

回復取組むのか……?

- バスに特化したマップがないから、
- 観光マップはあるが、バスを利用したマップはない。
- (観光マップはホームページ上にある。)

↓

バスを利用してもらうためにも、バスマップを！

アイディア#7(観光バスフリー乗車券)

観光バスマップ

具体的な案

- ◆設置場所: 駅周辺、バスの中、市内のお店
- ◆対象: 観光バスフリー乗車券(電子版)、アプリやSNS
- ◆形状: 持ち運びしやすいサイズの電子型カラー＆写真付き
- ◆掲載内容: ①常陸大宮市マップ
- ②観光地
- ③地元高校生おススメスポット(グルメ)
- ④観光ルート
- ⑤時刻表・運賃
- ⑥バスが今どこを走っているかの情報(アプリ・SNS)

アイディア#7(観光バスフリー乗車券)

観光バスマップ

事例

アイディア#7(観光バスフリー乗車券)

観光バスマップ

効果予測 (例) 沖繩県

乗客の利便性向上に期待

アイディア#7(観光バスフリー乗車券)

観光バスマップ

効果予測

観光バスマップの活用が

- バス利用者の増加
- 観光客の増加
- 観光客の満足度向上

情報提供としての SNSの活用

観光客のニーズ

アイディア#7(観光バスフリー乗車券)

SNSで何を情報提供するか?

・主にTWITTER・FACEBOOKで情報提供。

1. TWITTER: ① 常陸大宮市の公式情報(イベント、時刻表・運賃、バスから見える光景の写真などの投稿、観光客のつぶやきや質問への回答、イベント時のバス乗車状況の投稿、) ② 観光客のつぶやきや質問への回答、 ③ 観光客のつぶやきや質問への回答、 ④ 観光客のつぶやきや質問への回答、 ⑤ 観光客のつぶやきや質問への回答、

アイディア#7(観光バスフリー乗車券)

SNSで何を情報提供するか?

・主にTWITTER・FACEBOOKで情報提供。

アイディア#7(観光バスフリー乗車券)

FACEBOOKでの情報提供

2. FACEBOOK: ① 常陸大宮市のバス公式情報やスポット紹介、 ② バスの運転手の人たちの写真、 ③ ユーザーにニーズにあったものの投稿。

アイディア#7(観光バスフリー乗車券)

対応サービス: Social Insight

Social Insightのファン分析レポートの属性を一覧化してわかるサービス。フォロワー数の増減や、性別・年齢・地域をグラフでの視覚化。

アイディア#7(観光バスフリー乗車券)

アプリ開設による効果予測

TWITTERやFACEBOOKなどのSNSの開設により考えられる効果

1. ながいS/Vにて見た乗客の増加。
2. 他の交通機関との連携。
3. 分かりやすい情報提供によりバス乗客の不安低下。
4. ユーザーにあった投稿をすることで、影響力の増加や重要

アイディア#7(観光バスフリー乗車券)

参考文献

・Facebook・Twitter・Instagramの違いと使い分けまとめ！特徴からユーザー動向・運用方法まで徹底解説
<http://gakai-socialmediafab.jp/post-29375/> (2017.1.23 閲覧)

・事例で学ぶ！ 地方自治体・公共機関のFacebook活用法
<http://gakai-socialmediafab.jp/post-37104/> (2017.1.23 閲覧)

・あなたの「ソーシャル」影響力は？ Twitter&facebookの分析ツール
<http://mynavi-agent.jp/h/gaekrosid/2014/06/twitterfacebook5.html> (2017.1.23 閲覧)

東北ふるさと祭 C班

プレゼンの流れ

- 全体説明
- 交通・休憩、定例交換会
- 観光大使案内 (品名、特産品、特産イベント等)
- 観光大使 (地元産物を使ったイベント実行、特産イベント、観光)
- 観光大使 (アムウェイ・アムウェイ、定例交換会)
- ふるさと産物・アムウェイ (観光大使への特産品交換)
- スタンプラリー (品名・交換会)
- その他

このイベントに至るまでの経緯・目的

- 公益活動・地域振興の促進を図るためイベント開催の検討がスタート
- 公益活動・地域振興の促進
- 期間中の公共施設の維持費削減と地元振興の促進
- 期間中に行われる「ふるさと祭」をメインとし「観光大使」として

ふるさと祭について

開催地 茨城県 (指定大会、公的)

【目的】 イベントイベントを通じて、ふるさと産物を使ったイベントの実行、観光大使の育成、ふるさと産物の普及

【効果】 観光大使の育成、ふるさと産物の普及、ふるさと産物の普及

【イベント内容】 観光大使の育成、ふるさと産物の普及、ふるさと産物の普及


【スタンプラリー】 観光大使の育成、ふるさと産物の普及、ふるさと産物の普及

水郡線の活用



水郡線は茨城県内を走る路線で、観光に活用されています。

"列車"イベントで思い付くものは..?



列車イベントには、様々な取り組みがあります。

ジョイフルトレイン


主にJRグループが団体専用列車や臨時列車(イベント列車・行楽輸送列車・観光列車など)などに使用するために保有している鉄道車両である。

イベント列車とは?

- 臨時列車として、運行されるイベント。
- 観光大使、ふるさと産物、ふるさと産物を使ったイベントの開催等。
- 観光大使の育成、ふるさと産物の普及、ふるさと産物の普及
- 観光大使の育成、ふるさと産物の普及、ふるさと産物の普及

ローカル線プロレス (フラワー長井線)

2016/10/29



ワイン電車 (能勢鉄道) 2013/12/19



水郡線イベント列車

- 東北ふるさと祭に合わせて、イベント専用の車両を運行。
- 水戸駅~常陸大宮駅間営業。
- 列車は通常よりも1両多い5両編成。
- 各車両ごとで、イベントを開催。

水郡線イベント列車の概要

- 各車両のイベント内容は、随分と異なる。
- 水戸駅~常陸大宮駅間の運行は50分間、1000円。
- イベント列車として、運行される。
- 観光大使の育成、ふるさと産物の普及、ふるさと産物の普及


茨城交通バスの活用



ふるさと祭 イベント内容

- 特産品の販売
- 干しシイタケ、味噌、こんにゃく、鮎、餅、煮干し、高納豆、そば、うどん、こんにゃく、ゆず加工品、手作り味噌、地産物。
- 一商品開発、会場での販売
- 体験型イベント
- 観光大使の育成、ふるさと産物の普及、ふるさと産物の普及

ログ地数全国1位



旧上岡小学校



アクセス

- 常陸大宮駅
- 常陸大宮駅
- 旧上岡小学校

久慈川



「ひよっこ」効果も.....?

- 「ひよっこ」は2017年4月1日より約300kmの距離を走行する。
- 観光大使の育成、ふるさと産物の普及、ふるさと産物の普及

スタンプラリー

スタンプラリーは、観光大使の育成、ふるさと産物の普及、ふるさと産物の普及。

スタンプラリー

- 観光大使の育成、ふるさと産物の普及、ふるさと産物の普及

スタンプラリー

- 観光大使の育成、ふるさと産物の普及、ふるさと産物の普及

スタンプラリー

- 観光大使の育成、ふるさと産物の普及、ふるさと産物の普及

出典

茨城県観光文化センター 2017/12/29

茨城県観光文化センター

出典

茨城県観光文化センター 2017/12/29

茨城県観光文化センター

出典

茨城県観光文化センター 2017/12/29

茨城県観光文化センター

出典

茨城県観光文化センター 2017/12/29

茨城県観光文化センター

「水郡線」×「地酒」 で叶える東北振興

D班

なぜ「地酒」か？

茨城の地酒は大人気！！

地酒を作るのに欠かせない、豊かな「水」の体系！

関東圏内の「地酒」県（県内・酒蔵）

ひまわり・・・観光資源としてのポテンシャル大！！

みんな「お酒」が大好き♡

※niftyニュース「お酒についてのアンケート」（20歳以上の男女4771人）

- 1人1人が「お酒好き！」
- 男性は特に50代において75%、60代以上でも71%が好き
- 男性の50代以上はかなりお酒好き

※国産「お酒に関するアンケート」

- 過半数（55.9%）の方が週に4回以上お酒を飲む
- 年代が上がるほど飲酒頻度上がる傾向

※海外の日本食ブームに伴う日本酒の輸出拡大

- 平成25年の日本酒（清酒）の輸出額は、合計140億円（国産酒発注）
- これは輸出額53億円だった平成17年の約2.6倍

「SAKE」は世界共通語！！

「水郡線」×「地酒」 茨城県北観光ツアー企画

「グローバル列車で行く 大人の休日」

※メインコンセプト

- ターゲット
東北の外に住む50代以上のシニア層、外国人観光客
↑ 東北芸術祭の来場者 シニア層多い（東北芸術祭の方より）
- スケジュール
年4回 四季のツアー

水郡線じゃないといけないワケ

- ▶ 県北にはたくさん地域資源（滝・リンゴ・常陸秋そば・湯かみのある街並み人）
- ▶ 水郡線にしかないかわいい車両デザイン
- ▶ 茨城の特産品・お酒を楽しむことが出来る一車では出来ない水郡線ならではの楽しみ方

全シーズン統一のサービス

- ▶ 水郡線の車内は茨城の地酒が飲み放題！
- ▶ 多言語の車内アナウンスにより、外国人観光客に対応
- ▶ ツアー参加費には、名前を書いたシールを貼ってほしいお酒を入れるとお酒の人に「〇〇さん、お飲みください」の言葉一まるでふるさとの帰りに帰ってきたような感覚ふるさとの温もり、地域の人の温もりを感じられる一また来たいと思う動機に

それでは四季それぞれの ツアープランを提案します♪

春（4月後半）

- ▶ 目玉は景色と体験
 - 車窓からの豊かな新緑
 - 華やかな桜を味わえる花見-茨城の地酒が飲める
 - 体験による印象深い活動
- ▶ 電車ならではの風情を味わえる時間を提供
- ▶ 食にもこだわりよりリッチなひと時に

景色

- ▶ 袋田の滝を観望
- ▶ 常陸大子駅までの車窓からは成長盛りの新緑が見られる
- ▶ 都会の喧騒から離れた非日常な雰囲気を提供
- ▶ 日本桜百選にも選ばれた静峰ふるさと公園の八重桜を満喫
- ▶ 広大な園内の壮大な光景を満喫

体験 食事

- ▶ 奥久慈茶の里公園での手もみ体験
- ▶ 昔ながらのお茶づくりを体験できる
- ▶ お茶を味わう良い機会にも
- ▶ 同じ公園ではカタクリの花や和紙の人も楽しめる
- ▶ 昼食は茨城県北名物常陸秋そばを堪能

～夏編～

*童心に還る夏

- ▶ 緑豊かな自然を観て、田舎を思い出す
- ▶ 体験を通して幼少期を懐かしむ
- ▶ 夏ならではの食べものを味わう

*茨城県植物園 袋田の滝

- ▶ 5万本の植物からなる植物園、アマツ等の自然林からなる市民の森、きのこや山菜について学ぶべきのこ植物園
- ▶ 夏の袋田の滝
キラキラと陽光を浴びてダイナミックに跳る水しぶき、その勢いで時に鮮やかな虹を掛いて、訪れる人を魅了します。

*鮎のつかみ取りにチャレンジ

- ▶ 県内唯一の観光やなで、夏の風物詩である鮎のつかみ取りを体験していただく
- ▶ またやなでの近くにはお食事処もあり、新鮮な鮎料理を堪能することができます。

～秋編～

秋の紅葉と茨城、水郡線ならではの内容で特別感を

- ▶ 紅葉を楽しむ
- ▶ 上小川：車窓から楽しむ紅葉
- ▶ 常陸大子：袋田の滝・もみじ寺

～車内でも茨城の食を楽しみながら～

- ▶ 茨城の地酒 → 例：木内酒造（ビール造り体験・見学も）
- ▶ 県特産品 → りんご・常陸秋そば・ししもなど
- ▶ 秋の特産品を加工したお土産 → アップルパイなど

～冬～

シーズンコンセプト

「『温もり』を感じる大人旅」

- ▶ 4つの「温もり」
 - ① 地域の人の「温もり」
 - ② 「温もり」のある街並み
 - ③ ふるさとの「温もり」
 - ④ 「温もりの輪」を広げる

こだわりの空間デザイン

- ▶ 「足湯席」「こたつ席」の設置
- ▶ 車内では茨城の地酒が飲み放題
- ▶ 地酒、景色についての説明

⇒ 「温もり」を感じられる、「非日常」な空間演出が可能に！

ツアー内容

- ▶ メインコンテンツ
⇒ 袋田の滝で「氷瀑」を見る、周辺観光
- ▶ サブコンテンツ
 - ・ 「木内酒造」でビールづくり体験、試飲
 - 試飲して家で飲みたいた本を持ち帰り可（お土産）
 - ・ 地域の伝統「西ノ内紙」で大切な人に手紙を書く
 - 特別な紙で特別な人に伝える、書翰は書かない「温かい」気持ち

「温もり」を伝えるおもてなし

- ▶ 冬ならではの茨城の「おいしい」でおもてなし
- (例) あんこ湯圓、常陸秋そば、奥久慈しゃも、ほししいち、おいしい野菜
- ▶ お土産
 - ・ 木内酒造で選んだ地酒1本
 - ・ 大子のリンゴをふんだんに使ったアップルパイ
 - ・ 西の内紙で書いた手紙（温もりを東北の外へ）

プロモーション

- ▶ 毎年東京・浅草で行われている「茨城地酒祭り」PR
- ▶ Twitter広告（ターゲットを絞れる）
- ▶ Facebookのイベントページ作成（外国人観光客向け）
- ▶ 新聞広告（シニア向け）

まとめ

- ▶ 茨城の県北地域にはたくさん地域資源が眠っている！！
- これを利用しない手はない！
- ▶ 大切なのは、どんな人に対して、どんな目的で、何を伝えるか、どう伝えるか
- ▶ 茨城県北のファンを増やそう！！

参照

- ▶ 茨城県観光局HP
<http://www.visit-ibaraki.jp/>
- ▶ niftyニュース「お酒についてのアンケート」
http://www.nifty.com/news/2015/04/20150420_001.html
- ▶ 国産「お酒に関するアンケート」
http://www.nifty.com/news/2015/04/20150420_002.html
- ▶ 国産「お酒に関するアンケート」
http://www.nifty.com/news/2015/04/20150420_003.html
- ▶ 国産「お酒に関するアンケート」
http://www.nifty.com/news/2015/04/20150420_004.html

ご清聴ありがとうございました♪

3年次前期「地域課題特論ⅡA」

3年次前期「地域課題特論ⅡA」では、行政や企業等とは目的や方法が異なる「市民による」地域活性化の取り組みについて学ぶため、NPO法人や市民グループの方たちに講師になっていただいています。

講師の方たちにご自分たちの活動や取り組みについて講義いただいたあと、テーマを決めて、現地調査やインタビュー、アンケートなどを行い、そのテーマに関して掘り下げていきました。学期末には、経過や結論、提案、気づいた点などを整理し、まとめの発表を行って、講師の方々からアドバイスを受けました。

NPO法人シネマパンチ代表、水戸短編映像祭実行委員長の平島悠三さん、医療や介護の視点からまちづくりに取り組む「フロイデDAN」代表の寺門貴さん、「フロイデDAN」、「きらきらタウン☆ひたちおおみや事務局」の西村和也さん、K5 ART DESIGN OFFICE 代表、「あおぞらクラフトいち」主催の甲高美德さん、常陸大宮市などでまちづくりに取り組まれているデザイナーの倉田稔之さんにご指導をいただきました。

また、茨城県内の「地域おこし協力隊」のみなさんとの合同の研修を行い、博報堂ブランドデザイン副代表の深谷信介さんに講演をいただきました。



茨城大学 人文学部
地域課題の
総合的探求プログラム
発表会

地域課題特論Ⅱ
地域課題研究

2016.7.20.wed
16:30 ~ 17:50

茨城大学 水戸キャンパス
図書館 3F ライブラリ-ホール



3年次後期「地域課題演習」

本プログラムの特徴は、「地域の課題に関心を持った学生たちがグループを作り、それぞれが専門に学んでいる知見を持ち寄って、その課題を総合的に探求する。地域に飛び込み、地域の人から学び、地域を動かす課題発見・解決力を身につける」ところにあります。

3年次後期「地域課題演習」では、これまで本プログラムで勉強してきた内容をふまえ、学生たち自身がグルー

プを作り、「課題」を設定し、それに取り組むという段階に進みます。

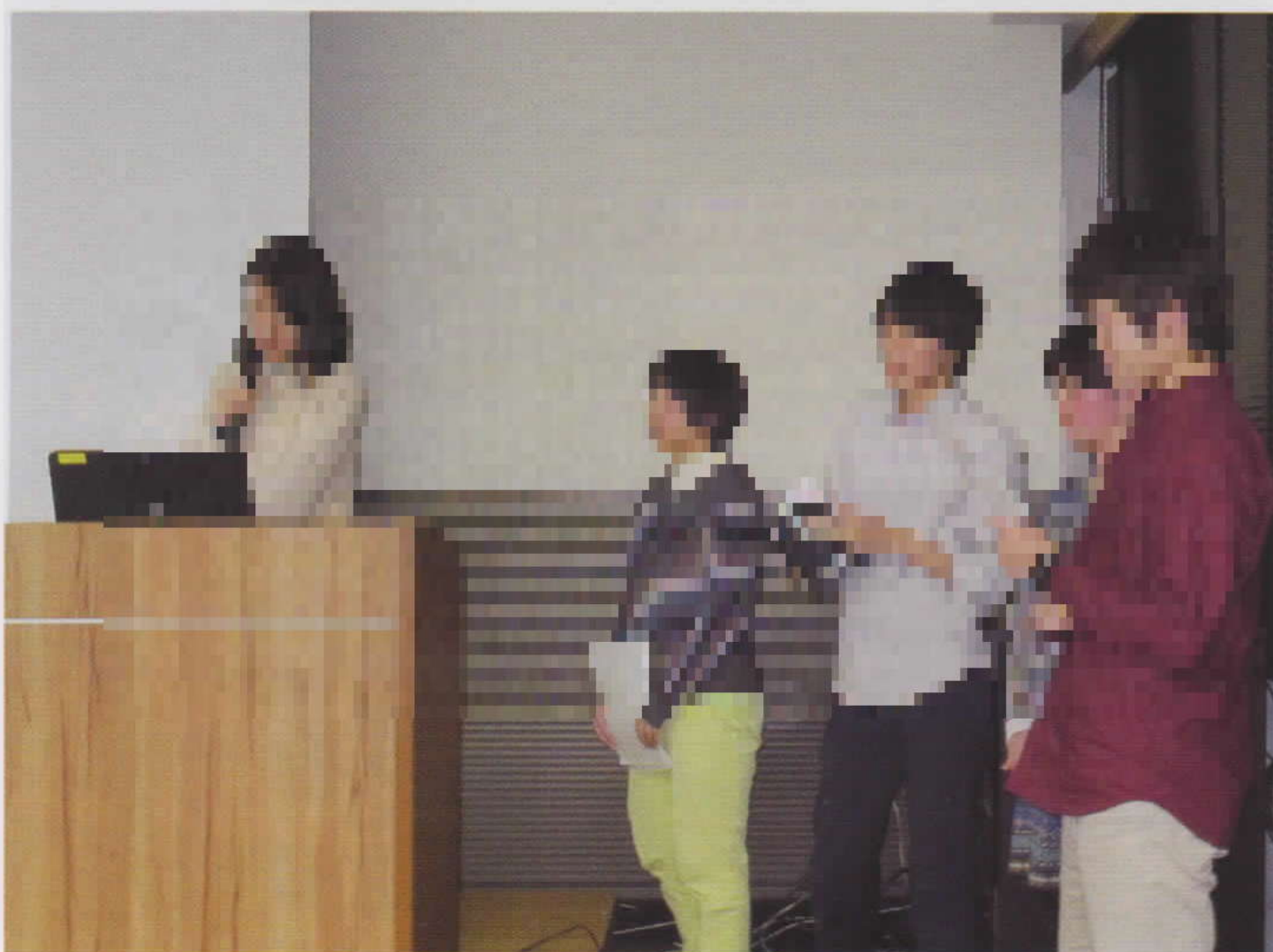
本年度のメンバーによる意見交換の結果、茨城県北地域の人口減少の問題について、取り組むことになり、研究を始めました。



地域課題の総合的探究プログラム

平成 29 年 1 月 25 日(水) 16:20~

茨城大学図書館 3F ライブラリーホール



4 年次前期「地域課題研究」

4年次生は3人でチームを作り、茨城県北地域への移住・定住について、研究を続けてきました。内閣府の提供するデータベースRESASのデータなどに基づいて分析を行い、課題を明確にし、自分たちの提案をまとめていきました。

その成果は、7月20日に行った発表会でも発表しましたが、その際にいただいたご意見などを参考にして、このチームはその後にも内容に追加や修正を行い、茨城県が

主催した「RESASを活用した政策アイデアコンテスト」に応募しました。

コンテストでは、最終プレゼンチームに選ばれ、奨励賞をいただきました。

本プログラムの成果に対して、このような評価をいただき、取り組んだ4年次生はもちろん、後輩の学生たちにもたいへん励みになりました。







～茨城県地方創生政策アイデアコンテスト～

茨城大学 人文学部
伊藤 由華
松本 奈津美
南 陽子

タイトル: **リターン**
提案するテーマ: **茨城県北移住促進**
内容の概要:
(農業県かつ東京から近い茨城県の特色を活かして、若い世代の移住者を増やす提案。特に過疎化が深刻な**県北地域**を対象に考察した。)

茨城県北の現状①: 移住者

→リターンで移住して戻ってくる人は多い。一歩、一歩で地方に定住する人が増えるのが理想。

茨城県北の現状②: 人口の社会増減

→転入は茨城県の周辺地域が多い

茨城県北の現状③: 人口の自然減

◆合計特出生率は回復している地域もあるが、全地域で人口は減っていく予案がされている

→人口減少問題の解決には出生率を高めるだけでは足りない?
⇒移住者を増やす取り組みが必要

茨城県北の現状④: 農業生産関連事業の実施状況

→茨城は農産物の加工・連携販売の割合が、東京は其農産物・体験農園の割合が高かった。

現状分析①: 今までのデータから

- ・リターンで地元に戻ってくる人は多い
- ・本人も移住者である人、地元の人との2人体制により、移住希望者が地域になじむための支援を行う。
- ・都心でも農業に興味のある人は一定数いる
- ・→茨城県の強みである農業に興味がある人は多い!

→もっとリターンしてくれる人を増やそう!!

現状分析②: インタビューから!

- ・農業に関心のある人はその地域・土地を気に入って移住している!
- ・**大家や隣家との人間関係が定住してもらうためには鍵になっている!**

→茨城県北がいかに農業に向いているか、移住者を歓迎してくれるかを知ってもらうことが必要

提言①: 輝けるさと化(小中学校VER)

- ◆中心の小中学校や中学校と、県内の自治体と協定を結び、県内で農業を体験する。
- ◆児童や生徒などが複数人で園に、親子ごと農業に臨む。
- ◆農作物の作付、刈り取りの時に各1泊2日づつ泊る。

→楽しい農業、茨城という地域の意識付け

子供たちを毎年受け入れてくれる農家が一定数必要
→実際に農業体験を行っている地域がある!

提言②: 輝けるさと化(高校・大学VER)

- ◆県内自治体の農業高校・大学と、県内の自治体との協定を結び、県内で就農体験をする。
- ◆期間は、3ヶ月から1ヶ月間、6ヵ月(半年から1年間)。
- ◆学費のりかえとして移住込み、単位が出るようにする。
- ◆住み込みで実際の農作業を手伝い、就農イメージを磨かせる。

→ギョウブの改善、地域を知ってもらう(就職先の候補地に茨城県北が挙がる!)

「高専生等の移住を促すか?」
→一般に高専生は移住希望者、出資してもらい、農業を学ぶ。移住促進。
→1年、10～12ヶ月間の移住期間。
→1年、10～12ヶ月間の移住期間。
→1年、10～12ヶ月間の移住期間。
→1年、10～12ヶ月間の移住期間。

提言③: 移住コンシェルジュ

- ・移住に関する相談に乗る専任の人。
- ・本人も移住者である人、地元の人との2人体制により、移住希望者が地域になじむための支援を行う。
- ・具体的には、空き家の大家さんへの仲介、近隣住民への紹介など。

→**地元住民との架け橋になる!**

「移住コンシェルジュの役割」
→移住希望者と地元の人とをつなぐ。地域になじむ支援。
→移住者が1人暮らしの人とでも円滑に農業が可能

まとめ

- ◆ステップ1 都内内の小中学生が農業体験する(茨城県北、茨城県北)
- ◆ステップ2 農業高校・大学が中長期的農業体験する(茨城県北、茨城県北)
- ◆ステップ3 移住前のコンシェルジュによる支援(住居や農具、暮らしや地域情報提供)
- ◆インフラ整備(水・電気)

人文学部 <地域課題の総合的探究プログラム>

人文学部で学ぶ学生が、自分の専門分野の学習・研究を活かしながら、地域に飛び込み、地域の課題解決に取り組むための総合的な力を身につけていくプログラムです。

茨城県、常陸大宮市などの自治体、NPO法人や地域活動団体などの方々に授業にご協力いただき、講師をつとめていただいています。

4年間、継続して学ぶカリキュラムで、プログラムを受講した学生には、修了証を授与しています。卒業後は、自治体職員になる学生が多いですが、大学院進学、新聞社や民間企業等に就職する学生もいます。



地域課題入門 1年次 集中講義

4日間の「集中講義」として実施〔40名が受講〕（平成28年度）

1日目 茨城県庁 県庁職員による講義

*県の「総合計画」について

*茨城県の「公共交通」に関する政策や取り組みについて

2日目 常陸大宮市 常陸大宮市、茨城県のご協力により実施

*「常陸大宮駅」「玉川村駅」「山方宿駅」「道の駅 みわ」「道の駅 かわプラザ」など、公共交通の課題、地域の実際の状況を見学・調査

*学生たちがグループをつくりワークショップ

3日目 常陸大宮市 常陸大宮市、常陸大宮市まちづくりネットワークのご協力により実施

*市民による「まちづくり」について

*「西塩子の回り舞台」の組み立て会場で、作業のお手伝い

4日目 常陸大宮市 茨城県公共交通常陸大宮地区協議会、常陸大宮市、茨城県のご協力により実施

*グループワーク後、学生たちのチームが「地域の公共交通」について提案を発表。講評をいただく。



地域課題特論Ⅰ 2年次後期

茨城県・企画課のご協力で実施

*「総合計画」「県北振興」「統計課」「公共交通」のテーマごとに県庁の担当課職員による講義

*常陸大宮市、大子町で「公共交通」「県北振興（茨城県北芸術祭）」の現地研修

*茨城県北芸術祭の「来場者調査」に学生が協力 茨城県天心記念五浦美術館

*学生たちが調査・研究に取り組む。茨城県立小瀬高校の高校生たちとグループワーク

*5つのチームが「公共交通」「県北地域の振興」に関して事業提案を発表 県庁職員、茨城県公共交通常陸大宮地区協議会の方々から講評をいただく



地域課題特論Ⅱ 3年次前期

NPO法人、地域活動団体の方たちのご協力で実施

*「常陸大宮市まちづくりネットワーク（倉田稔之さん）」「フロイデDAN（寺門貴さん）」「常陸大宮市きらきらタウン実行委員会（西村和也さん）」「NPO法人 シネマパンチ（平島悠三さん）」を講師に「市民によるまちづくり」を学び、現地での調査・研究。7月、本プログラムの発表会で発表

*深谷信介さん（博報堂、内閣府シティマネージャー）を講師に全国の各地域における「市民・住民による」まちづくりを勉強

*「茨城県地域おこし協力隊」と合同で研修



地域課題演習 3年次後期

*3年生5人によるチームが調査・研究中

*常陸大宮市など県北地域における若年層の人口減少を課題として、結婚に結びつく施策などを検討

*12月「茨城大学学生地域活動発表会」に参加。1月、本プログラムの発表会で中間発表



地域課題研究 4年次前期

*茨城県の「人口減少問題」について、研究と調査

*「茨城県北移住促進政策」を「I（アイ）ターン」のタイトルでまとめ、7月、本プログラムの発表会で最終報告

*12月「茨城県主催 RESASを活用した地方創生政策アイデアコンテスト」で最終プレゼンチームに選ばれ、奨励賞を受賞（伊能由華、南陽子、松本奈津美）。茨城大学学長表彰。



～茨城県地方創生局アイデアコンテスト～



<シフト研究の総合的探求プログラム> 入学式

本プログラムは、シフト研究の総合的探求プログラムの第一歩として、入学式を通じて、学生と教員との交流を促進し、研究の意欲を高めることを目的としています。



地域課題の総合的探求プログラム

担当教員
茨城大学人文学部 井上拓也、西野由希子

2017年3月31日発行 茨城大学人文学部